

昭和47年度第3回核データ検索システム ワーキンググループ議事録

日 時 昭和48年1月18日 13時30分～17時00分
場 所 日本原子力研究所東海研究所 V・d・G 29号室
出席者 五十嵐 信一（原 研），金森 善彦（原 研）
中川 康雄（原 研），中嶋 籠三（法 大）
八谷 雅典（三井造船），更田 豊治郎（原 研）

議 事

1. 前回議事録の確認
2. 重ね合せプロットの件

2-1 経過報告

- IBMに発注して作業を行っていたENDF/BとNESTORのデータを重ね合せてプロットするプログラムは最近完成した。プロットできる反応はエネルギー分布（全断面積など）と角度分布の二種類である。テストケースとして行ったFeの全断面積と弾性散乱断面積のグラフ、プログラムリストを受け取った。カードはIBMから直接原研に送られる。（山越、中川委員が代理で報告）
- UKNDLのプロットができる様になった。山越委員の行っていたENDF/BとNESTORの重ね合せのプログラムが入手でき次第プログラムをつなぐ作業を行なう。（金森）
- KEDAKのプロットができる様になった。プログラムの作成は核データ研の成田氏が行った。（五十嵐）

2-2 今後の作業

SCISRSとENDF/Bを重ね合せる事ができ、それをCRT表示をしたり、またSpline函数でフィットして評価を行なう

S C O R E が近く原研に入るという話しがあるが、それとは別に我々の作業を継続する。今後の予定は次の通りである。

- (1) IBM からプログラムカードが届き次第担当者が集まる。
- (2) IBM のプログラムを F A C O M で通す。
- (3) K E D A K, U K N D L の担当者がそれぞれのプログラムを IBM のプログラムにつなぐ。

さらにプログラムが完成した後については、

- (1) いくつかの例を載せて、プログラムのレポートを出す。
- (2) プログラムを使って系統的にプロットを行う。

という案が金森委員より出され承認された。この作業の詳細は今後の会合で検討していく。

3. トピカルミーティングの件

今年の 6 月東海研究所で開かれる、原子力学会主催の高速炉物理に関するトピカルミーティングで N E S T O R について報告する。

発表者は、中川、成田、五十嵐、西村の 4 人である。（中川）

4. N E S T O R, C O M F O R D の件

作業の進展なし、来年度の作業とする。

5. 来年度計画

来年度の作業として次の項目があげられた。

- (1) 重ね合せプロットプログラムのレポート作成
- (2) 重ね合せプロットの作業
- (3) N E S T O R
 - data index の追加
 - 修正コードの作成
- (4) C O M F O R D
- (5) 表示プログラム作成

(6) 三次元表示

これら作業の内容については次回の会合で検討する。この他、今まで我々の考えた全システムの話に肉づけをし、レポートにまとめることも考えられるという提案が更田委員よりあった。

さらに、ワーキンググループとしての作業のあり方について議論がなされた。

6. 次回

2月26日(月) 東京で行う。